



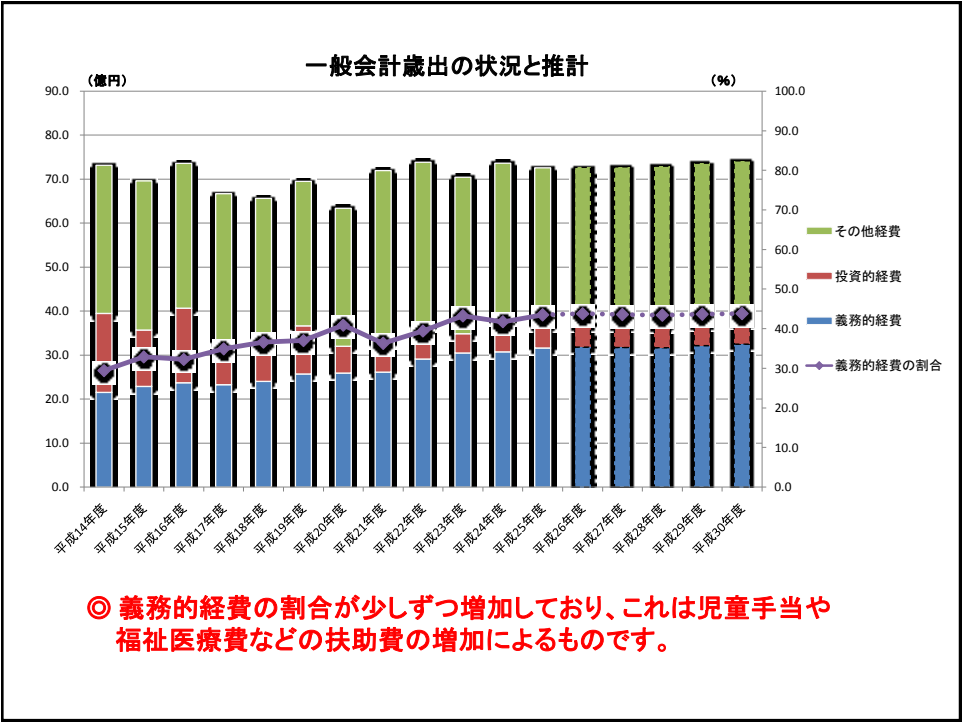
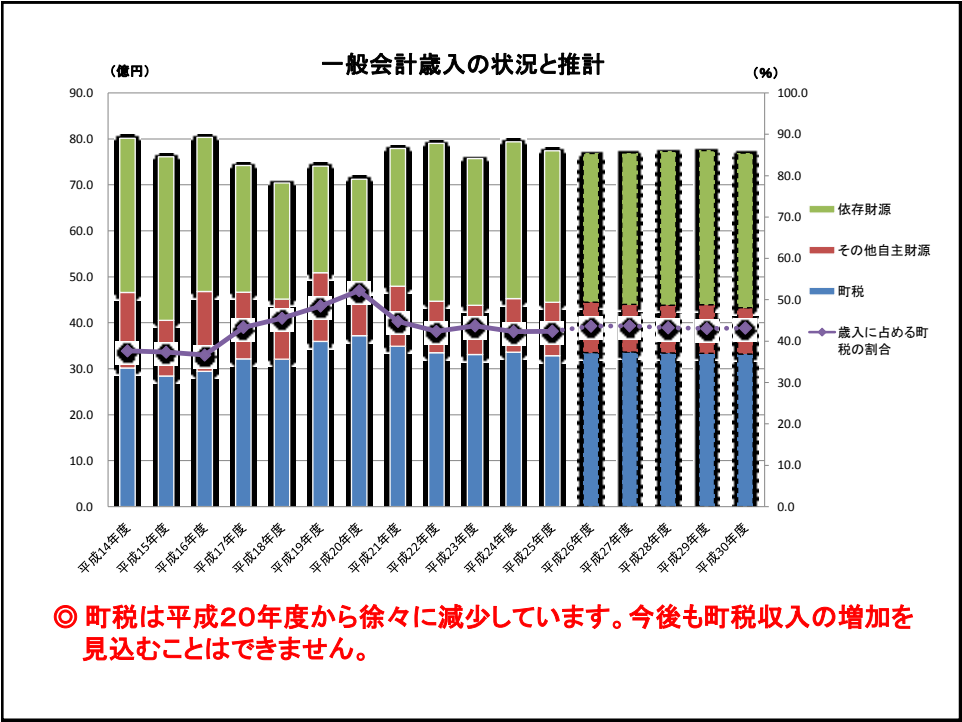
平成25年度 町政懇談会

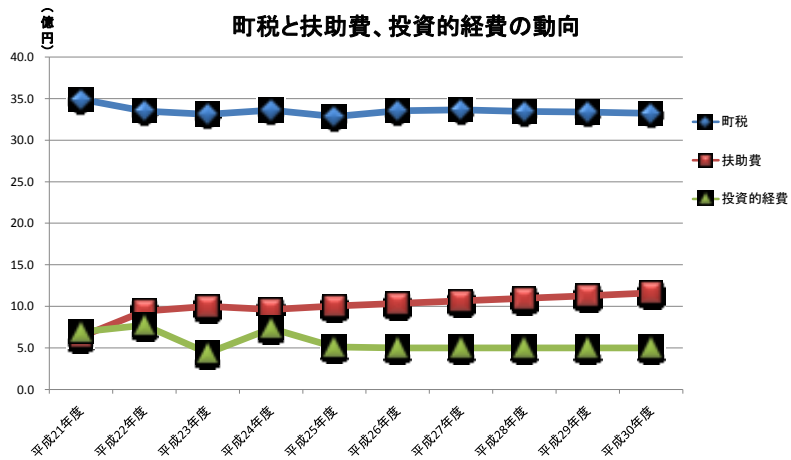
- ・『東員町の財政状況』
- ・『ごみの減量化に向けて』



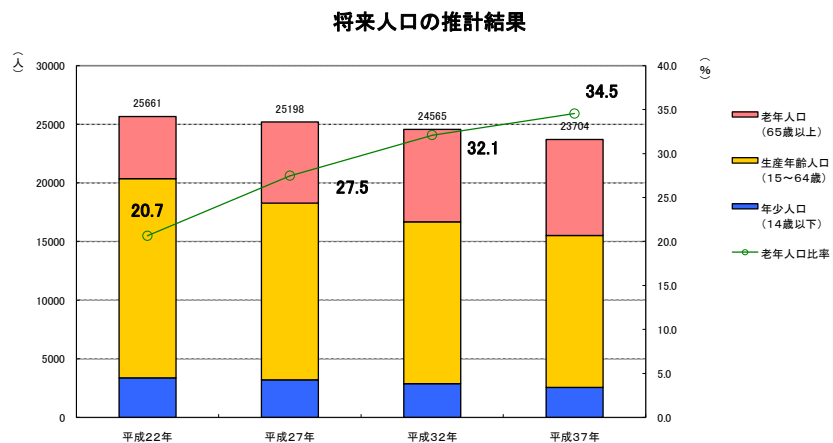
東員町の財政状況

- 東員町一般会計の歳入歳出の状況
- 将来人口の推計結果
- 積立金と地方債の現在高の推移





◎ 今後も町税収入の増加を見込むことはできず、扶助費は増加すると見込まれ、また今後数年間に公共施設の長寿命化のための改修工事が必要となってきます。



高齢化率：平成22年は、20.7%

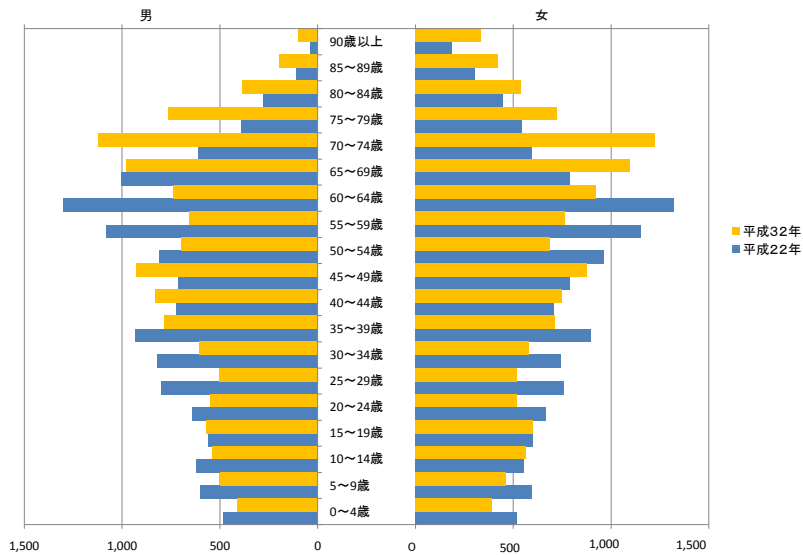
平成27年 = 27.5%

平成32年 = 32.1%

平成37年 = 34.5% になると推計されます。

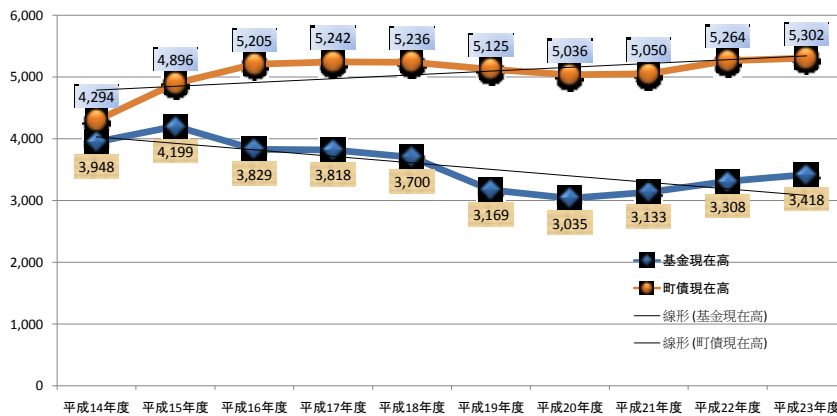
出典：国立社会保障・人口問題研究所
男女・年齢(5歳)階級別データ「日本の地域別将来推計人口」(平成25年3月推計)

人口ピラミッド(平成22年と平成32年の比較)



積立金と地方債の現在高の10年の推移 (単位: 百万円)

【出典】地方財政状況調査(一般会計)



地方債 : 町が国や金融機関から借りのお金で、主に施設整備など一時に多額な資金が必要な時に借りるものです。

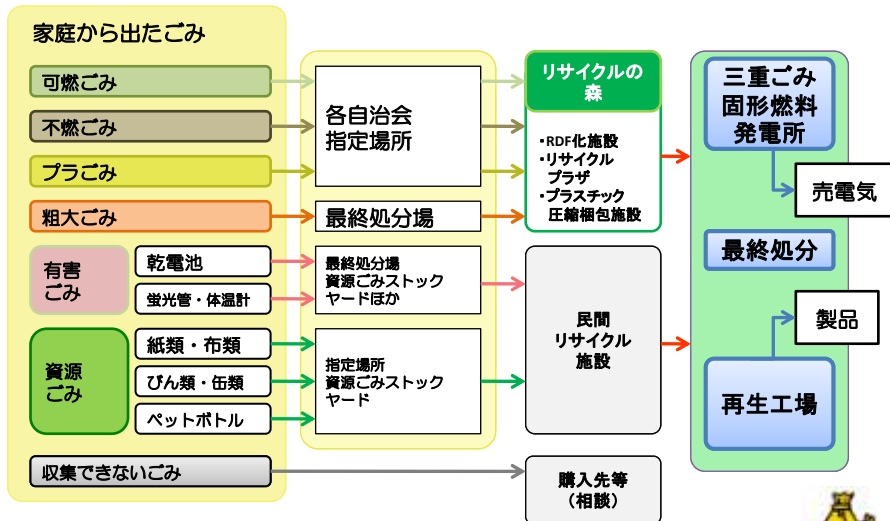
積立金 : 施設整備など一時に多額な資金が必要となるための、町が積み立てるものです。

ごみの減量化に向けて

- 東員町におけるごみ処理の現状
- ごみ減量に向けての取り組み

- 東員町におけるごみ処理の現状

東員町のごみ・資源のゆくえ



東員町のごみ処理施設について①



← 東員町資源ごみストックヤード

主体構造 スレート造り平屋建
 ストックヤード部分
 建築面積 655.80㎡
 車庫棟部分
 建築面積 225.75㎡

搬入可能資源ごみ。

【搬入できる資源ごみ】

- 新聞・雑誌、段ボール、紙パック、布
- ビン、缶、ペットボトル
- その他、電池、蛍光管（球）

東員町最終処分場 →

土砂、ガレキ類・粗大ごみが搬入できます。
 また、各地区年4回の粗大ごみ集積場所として利用しています。

【搬入できるもの】

- 土・砂・石・瓦・ブロックなど
- 粗大ごみ（指定搬入日のみ）



東員町のごみ処理施設について②



← 生ごみ堆肥舎

ストックヤード隣に併設
「生ごみリサイクル思考の会」の
方々が毎週水曜日に活動を頂
き、委託作業として二次処理を
お願いしている堆肥舎です。

BDF製造施設 →

家庭や町学校給食センターから収集し
た廃食油をBDF（バイオディーゼル
フューエル）に精製し、一部のごみ収
集車の燃料として使用しています。
※収集している油は植物性油のみ



東員町のごみ処理施設について③



← ごみ収集車

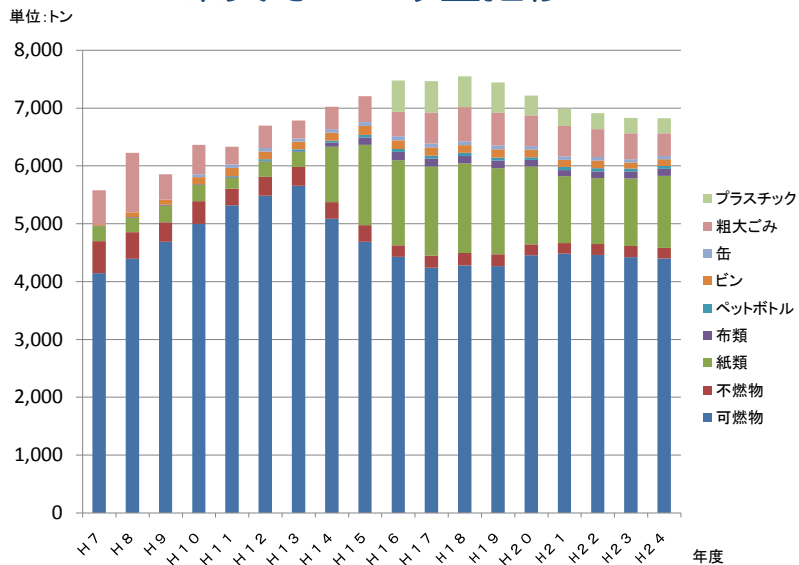
日々4台のごみ収集車が稼働し町内のごみ
を集めています。
うち2台をBDF（バイオディーゼル燃料）
利用し収集しています。

資源循環センター リサイクルの森 →

2市2町（桑名市、いなべ市、木曽岬町、
東員町）で運営され、町内で収集された
ごみはこのリサイクルの森に運ばれ、ご
みの種類ごとにRDF（ごみ固形燃料）と
したり、再生工場へ搬出されたりしてい
ます。



東員町のごみ量推移



平成24年度の年間ごみ処理経費

●ごみ処理に係る経費の総額 **395,841,345円**

(内訳)

- ・桑名広域負担金 325,613,000円
 - ・建設費分 118,624,000円(施設建設費用)
 - ・管理費分 206,989,000円(ごみ処理費用)
- ・一般ごみの収集運搬等に係る経費 38,629,142円
- ・その他の経費 31,599,203円

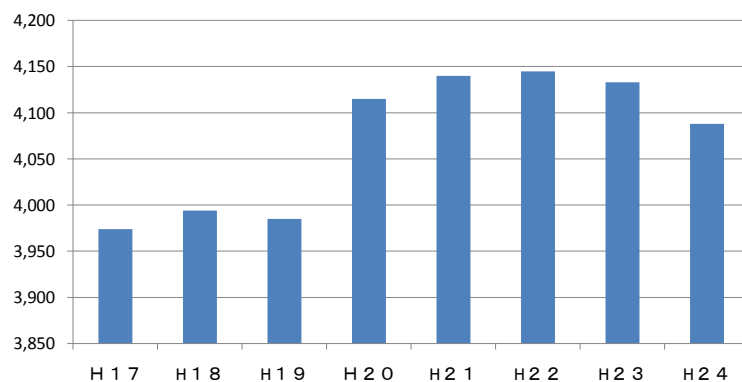
平成25年3月31日現在

人口	25,763人
世帯数	8,999世帯
一人当たりの費用	15,365円

- ごみ減量に向けての取り組み

可燃ごみ量の推移（収集分）

単位：トン

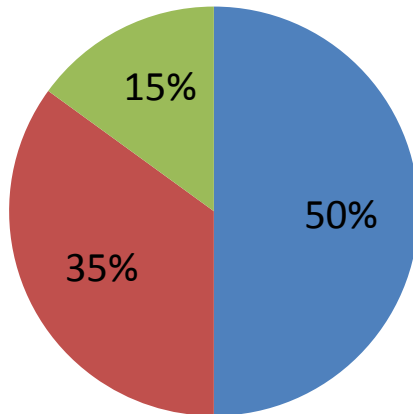


年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
可燃物	3,974	3,994	3,985	4,115	4,140	4,145	4,133	4,088

可燃ごみの内訳

～東員町全体では～

合計 約4,100t



■ 生ごみの量 2,050t
(内90%が水分)

■ 紙類の量 1,435t

■ その他の可燃ごみ量
615t

(平成24年度)

可燃ごみの内訳

～各家庭では～

- 町内家庭の1世帯から出る可燃ごみ量

(年間)約 456kg (1日)約 1.3kg

- 可燃ごみの内、生ごみの量

(年間)約 230kg (1日)約 630g



- 可燃ごみの内、紙類の量

(年間)約 160kg

(1日)約 440g



(平成24年度)

● 可燃ごみを削減するために

- ① ごみの総量を減量する
- ② 紙類の分別回収
- ③ 生ごみの水切り
- ④ 生ごみの堆肥化

①ごみの総量を減量する

- 町は、スーパーなどの事業所と協働し、
過剰包装などを控える
- 町民は、マイバッグ等を利用する
- 町民は、不要になる物を買わない
ようにする

(使い捨て商品の購入を控える など)



②紙類の分別回収

可燃ごみの約35%を占める紙類を、
ごみではなく、資源として回収しています

- 新聞紙、雑誌、段ボール等

従来どおり資源ごみとしてお出し下さい

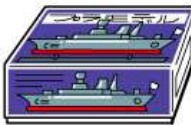


- 雑紙類 こちらも資源です！！

可燃ごみに入れず、資源ごみとしてお出し下さい



雑紙の種類



おもちゃ、お菓子の外箱



封筒や手紙
(封筒のビニールは取る)



紙製の袋



ティッシュペーパーの箱

その他、レシート、トイレトペーパーの芯なども含まれます。

③生ごみの水切りの必要性

生ごみの約90%は水分。
その水分を、いかに減らすかが
ポイント！



生ごみの水切り方法



- 調理の際の野菜くずなどを水に濡らさない

(シンク内に三角コーナーを置かない。)



- 天日などで乾燥させる

環境に対する負荷

東員町から出る生ごみの内、年間
1,845tの水分を処理している。



**2千万円分以上の灯油で水を燃やすこと
により、大量の二酸化炭素を発生させて
いる！！**

④生ごみの堆肥化

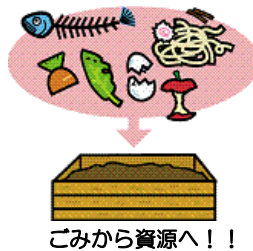
可燃ごみの減量化と資源循環を図るため、
生ごみ堆肥化を推進します。



生ごみ堆肥化検討委員会

生ごみ堆肥化実証事業

平成25年度は「生ごみ堆肥化地区」を指定し、
実証調査を実施します。



● 実証事業の目的

家庭での処理から堆肥化までの
実証調査を行う

生ごみ堆肥化のイメージ

- ① 水切りした生ごみを家庭の専用バケツに入れ、臭い等の防止に、副資材(モミガラなど)を入れ、サンドイッチ状にして収集日まで保管



- ② 生ごみを週2回収集し、堆肥舎へ運搬



- ③ 堆肥舎で副資材(コメヌカなど)を加え、水分調整、切り返しを行いながら、微生物発酵・分解により2か月程度で堆肥に



- ④ 完成した堆肥は町内で有効に活用します



ご清聴ありがとうございました。



東員町
Toin Town